

インクルーシブデザイン研修

— まちのなかで多様な声を聞き、価値に変えるコツを学ぶ —



障害のあるまちの人の声から街を良くする共創に向かうメカニズムを学ぶ。



近年、障害のある人などを巻き込む共創的手法としてインクルーシブデザインの考え方が注目されている。困っていることをヒアリングするのではなく、むしろ障害当事者とともに気づくことで、今までになかったアイデアを考える手法である。

本プログラムは多様な声を聞き新しい気づきを獲得するための考え方や方法を学びながら、「インクルーシブとはそもそも何なのか？」をともに考える機会とする。



講師

やまだ さゆり

山田 小百合氏

特定非営利活動法人Collable 代表理事

- ・東京大学大学院学際情報学府修士課程修了
- ・過去の非常勤講師先：早稲田大学、京都芸術大学等
- ・日本財団「DIVERSITY IN THE ARTS」内連載「RADIOインクルホイ！」連載中

会場

松江会場 **オンライン受講可** 定員50名

日時 6月12日(水) 9:45~16:15

場所 島根県市町村振興センター

プログラム

午前

講義&ミニワーク

- ・インクルーシブデザインとは何か？
- ・「デザイン」が示すことは？
- ・インクルーシブとは何なのか？

午後

ミニワークショップ

- ・バイアスから共創に向かうためのワーク
- ・日々の業務でインクルーシブを実践するには？
- ・インクルーシブデザインの応用

対象

■全ての所属 ■新採~管理監督者

こんな方におすすめ！

- 障害のある方への対応を前向きな方法や考え方に変えたい
- 苦手な人や関係の浅い人と関係性を良好にするための考え方を知りたい
- 地域課題解決に多様な声を取り入れアイデアを生み出す方法を知りたい

研修担当より

*この研修は、制度などのソフト面から施設などのハード面まで、様々な形でこれからのまちを作っていく自治体職員に、インクルーシブデザインという「視点」を持つ機会を提供したいと考え企画しました。

*例えば、避難所のあり方を考えるとき、多様な人(高齢者、障がい者、外国人、子供、その他マイノリティ)が安全にスムーズに移動したり滞在できるように、誰とどんなことを考えるべきか。例えば、庁舎の案内板を設置するとき、老朽化した公園を整備するとき、博物館で展示をするとき。この研修では、多様さを受け入れる(包括=インクルーシブ)ための考え方、ワークショップの開き方などを事例とともに学びます。